

助成事業実施報告書

団体名 わんだふる

代表者・役職名 氏名 代表 赤羽 潤子

▼報告書の扱い、および記入にあたっての注意点

この報告書(精算報告書以外)は、ホームページなどで公開する予定ですので、広く読まれることを想定してご記入ください。また、編集段階で、表記・表現等を事務局で編集する場合がありますので、あらかじめご了承ください。語尾の表現は「です・ます」調をお願いします。報告書に掲載するため活動の内容がよくわかる写真(2枚程度。写真の肖像権問題がないものの提出をお願い致します)を添付して下さい。

1. 助成プロジェクト名

防災士及び地域リーダーのスキルアップ研修

2. 実施団体の概要(創設の経緯、創設時期=法人で、法人化前に任意団体での活動がある場合、その段階からご記入ください。会員数など。180文字程度まで)

平成18年9月「わんだふる」設立。翌19年6月「NPO法人わんだふる」に移行し、福祉と防災を一体に取り組んだまちづくりの活動を行って来ました。令和元年9月「NPO法人わんだふる」を解散し、活動内容は変わらずに、ボランティア団体「わんだふる」として活動を行っています。

3. プロジェクトの目的とその背景(※応募申請書に記載のものでも可) 250文字程度まで

過去3年間で群馬県が主催して地域防災リーダー養成講座を行い、県内で472名の防災士の資格を取得させましたが、知識があっても継続的な実務に関する技能・技術研修が行われていない現状であります。加えて、高崎市と群馬県防災士会とが協定を結び、地域の自主防災会が市民に対し減災に向けた啓蒙活動や地域防災リーダーを育成する機会が増えたこともあり、災害をより身近なものとして捉えた訓練を行い、地域住民の意識の向上に取り組んでゆく必要性が増えてきております。

4. プロジェクトの内容(※当初予定と変更がない場合は、応募申請書に記載のものでも可) 300文字程度まで

過去数年、HUG(避難所運営ゲーム)を各地域で行って来ました。地震バージョンのみでした。特に、高崎市を含む西毛地区においては、地震だけでなく最近内陸地でも発生している線状降水帯による風水害の危険性が予想される為、HUGの参加者からも地震編だけでは「実感がわからない」という声が上がってきております。

そこで新たに静岡県が開発した「風水害バージョン」「社会福祉施設バージョン」が販売されたのを機に、具体的に身近な訓練を通し災害への意識を高め、併せて、地域防災リーダー及び防災士の技能習得を目指すこととしました。

5. プロジェクトの実施で得られた「結果」(OUTPUT。実施回数や参加者数など)、「成果」(OUTCOME。事業によって生まれた直接的な変化)、「社会的な変化」(IMPACT。事業が社会に与えた影響)などの『効果』 300文字程度まで

今回のプロジェクトでは地域防災リーダーの育成として、避難所HUG訓練を活用しスキルアップ研修会を合計5回開催し、延べ161名の参加者による訓練を行うことができました。今までの避難所HUG訓練では直下型地震を想定した訓練を行って来ました。今回は昨今の異常気象による風水害の災害を想定した訓練を行うことで、身近に感じる訓練を行うことができました。特に台風19号で浸水被害を受けた地域の参加者からは、実体験と重ね合わせ、反省と今後の課題に気付く機会を得ることができたとの感想を得られました。

また、社会福祉施設での訓練では、管理者と現場・行政の参加者との認識の違いを参加者が互いに理解することもでき、高齢者・障がい者福祉施設の避難所の開設や運営の方法などにつき今後の課題が見え、新たに具体的な目標を持つことができました。

6. プロジェクト実施にあたっての課題、今後の展望など 300文字まで

参加者の大多数が災害に対して高い意識を持っているが、発災時に正確な行動を起こすための方法を理解していないこと、更に行政や自主防災会・福祉施設等による正確な知識の習得が必要であると痛感しました。今後は防災士の活動の中で、地域における一時避難所と指定避難所・福祉避難所の違いを一般の方々にも周知しつつ、今回購入させて頂いたHUG訓練用カードを活用し、机上訓練を重ねながら避難所開設及び運営の手順やルール・避難所の配置図を地域や福祉施設に合わせて事前に作成し、事例を積み重ねてゆく所存です。さらなる高齢化社会において福祉施設の存在は多様化してきており、地域の防災力向上と共に、様々な状況を想定した福祉施設での避難者の受入れ体制も行政と共に協働していく必要があると思われます。

参考：3月中川公民館・6月安中市J.C.（HUG風水害編）：上半期高崎健康福祉大学（HUG社会福祉編）実施予定

7. 参考資料

支援対象プロジェクトで作成したチラシ、パンフレットやマスコミで紹介された記事等は現物またはコピー、活動状況の写真などを参考資料として提供してください。

参考資料あり・特になし

スキルアップ研修：避難所HUG訓練活動報告

HUGは、H（hinanzyo避難所）、U（unei運営）、G（gameゲーム・駆け引き）
避難所HUGは、避難所運営を皆で考えるためのひとつのアプローチとして考えられた訓練です。
避難者の年齢や性別、国籍やそれぞれが抱える事情が書かれたカードを、避難所の体育館や教室に見立てた
平面図にどれだけ適切に配置できるか、また避難所で起こる様々な出来事にどう対応していくかを模擬体験を
行います。

実施日時： 令和元年10月19日（土） 14:00～17:00

実施場所： 高崎市総合福祉センター

訓練参加者： 防災士 31名

訓練内容： 4グループに分かれHUGカードを使用し訓練を実施
今回の訓練では「風水害」を想定した訓練を行いました。
グループのメンバーでカードの読手を交代で代わり訓練を行いました。
昨今、線状降水帯による集中豪雨による災害が多発しております。実際の大雨による避難所
開設を実施した方もおり、経験からのアドバイスも加わり非常に身になる訓練となりました。

【実施状況】



令和元年度 地域防災学習会

『災害時、あなたの施設をどう守る？』

【避難所運営ゲーム(HUG)の社会福祉施設編】



大地震が起こったとき…

- ・利用者の安否は？
- ・職員の安否は？
- ・地域の方が避難してきたら？
- ・施設運営や機能はどのように維持するのか？

- 日時: 令和元年12月21日(土)
14:00~17:00
- 会場: 社会福祉法人希望館 5階会議室
高崎市江木町1093-1
- 定員: 30名(先着順)
- 申込: 裏面の参加申込書にご記入の上、FAXにて
お申し込みください。

協催 社会福祉法人希望館 真如苑助成事業

主催: わんだふる

〈お問い合わせ先〉 TEL:027-322-1188(担当: 赤羽)